

やまぐち森林づくり推進協議会

第2回会議資料

令和6年10月17日（木）

山口県農林水産部 森林企画課・森林整備課

目 次

I 県民アンケート調査等の結果について

- 1 県民アンケート調査 …………… p. 1
- 2 市町・関係団体意見聴取 …………… p. 17

II 事業地における植生回復状況等調査の結果について

- 1 植生回復状況等調査 …………… p. 19

III 来年度以降の対応について

I 県民アンケート調査等の結果について

1 県民アンケート調査

(1) 目的

やまぐち森林づくり県民税の第4期が令和6年度で満了を迎えることから、今後のあり方を検討するための参考資料として活用する。

(2) 調査概要

① 個人

[調査対象]

18歳以上の県民

[調査方法]

郵送及びe・アンケートモニター

[対象者数]

1,311人

[抽出方法]

住民基本台帳から、各市町の人口比率に応じて無作為抽出

[調査期間]

郵送「令和6年8月2日(金)～8月20日(火)」

e・アンケートモニター「令和6年8月26日(月)～9月10日(火)」

[回答状況]

439人(33%)

② 法人企業

[調査対象]

県内に本社又は事業所がある法人企業

[調査方法]

郵送

[対象社数]

2,300社

[抽出方法]

国税庁法人番号公表サイト掲載の県内法人企業を無作為抽出

[調査期間]

郵送「令和6年8月2日(金)～9月20日(金)」

[回答状況]

498社(22%)

(4) 回答者の属性

ア 個人

① 性別

性別	回答数	回答割合
男性	187	42%
女性	232	53%
回答したくない	4	1%
無回答	16	4%

② 年代別

年代	回答数	回答割合
10歳代	3	1%
20歳代	12	3%
30歳代	41	9%
40歳代	75	17%
50歳代	72	16%
60歳代	86	20%
70歳以上	136	31%
無回答	14	3%

③ 職業

職種	回答数	回答割合
農林漁業(家族従事者を含む)	19	5%
商工サービス・自由業(家族従事者を含む)	20	6%
管理職	22	6%
事務職・専門技術職(事務員、技師、研究など)	67	19%
技能職・労務職(工員、店員、消防士、運転士など)	44	12%
主婦・主夫	72	20%
学生	5	1%
無職	88	25%
無回答	22	6%

※ e・アンケート除く359人の回答

④ 居住地

地域	回答者数	回答割合	地域	回答者数	回答割合
岩国	31	7%	宇部・小野田	50	11%
柳井	16	4%	下関	60	14%
周南	77	18%	萩・長門	17	4%
山口・防府	76	17%	無回答	112	26%

イ 企業

① 業種

職種	回答数	回答割合	職種	回答数	回答割合
農林漁業	10	2%	ガス業	1	0%
鉱業	0	0%	不動産業	40	8%
建設業	127	26%	飲食店・宿泊業	9	2%
製造業	43	9%	医療・福祉	22	4%
卸売業	35	7%	教育・学習支援業	4	1%
小売業	64	12%	サービス業	81	16%
運輸業	20	4%	金融・保険業	13	3%
情報通信業	6	1%	無回答	23	5%

② 資本金

区分	回答数	回答割合
1,000万円以下	346	69%
1,000万円超～1億円以下	109	22%
1億円超～10億円以下	2	1%
10億円超～50億円以下	0	0%
50億円超	0	0%
無回答	41	8%

③ 所在地

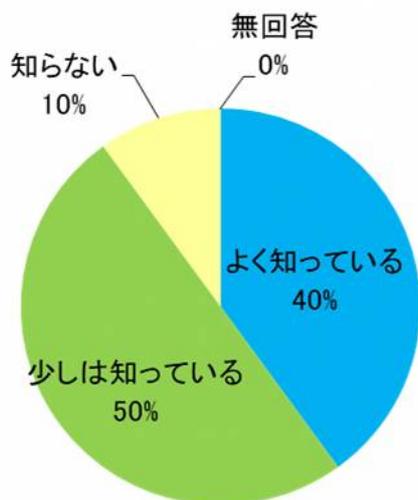
地域	回答者数	回答割合	地域	回答者数	回答割合
岩国	48	10%	宇部・小野田	78	16%
柳井	22	4%	下関	85	17%
周南	98	20%	萩・長門	34	7%
山口・防府	95	19%	無回答	38	8%

(4) 調査結果

<設問 1>

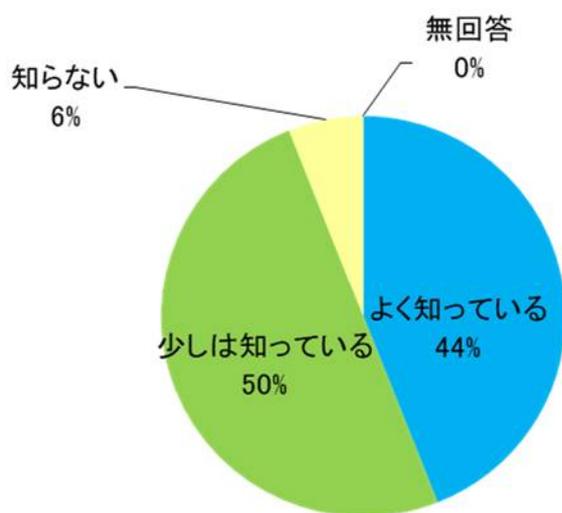
森林は、豊かな水やきれいな空気を育み、山地災害の防止、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収など、様々な役割（これらを総称して「森林の持つ多面的な機能」と呼ばれています）を果たし、県民の暮らしや産業を支えていることを、あなたはご存じでしたか。

【個人】



1 よく知っている	175	40%
2 少しは知っている	219	50%
3 知らない	43	10%
無回答	2	0%

【企業】

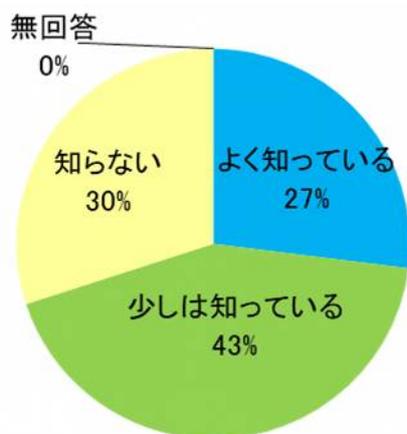


1 よく知っている	219	44%
2 少しは知っている	249	50%
3 知らない	30	6%
無回答	0	0%

<設問2>

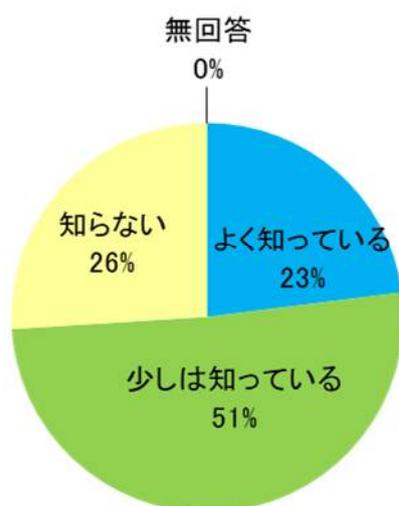
県土面積の7割を超える森林の中で、スギ・ヒノキの人工林が荒廃し、森林の持つ多面的な機能が発揮されにくくなっていることや、繁茂・拡大した竹林によって生活面での支障等が生じていることを、あなたはご存じでしたか。

【個人】



1 よく知っている	119	27%
2 少しは知っている	190	43%
3 知らない	129	30%
無回答	1	0%

【企業】

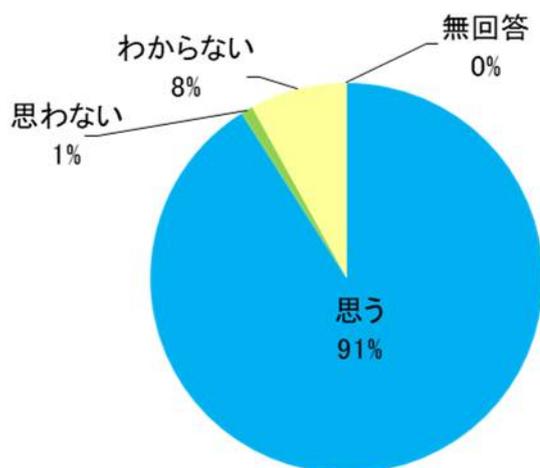


1 よく知っている	116	23%
2 少しは知っている	253	51%
3 知らない	128	26%
無回答	1	0%

<設問3>

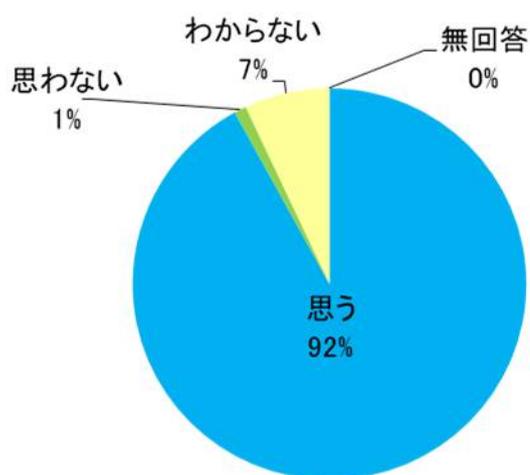
荒廃したスギ・ヒノキ人工林や繁茂・拡大した竹林などを整備して、将来に向けて豊かな森林を引き継いでいくことが必要と思いますか。

【個人】



1 思う	398	91%
2 思わない	6	1%
3 わからない	35	8%
無回答	0	0%

【企業】

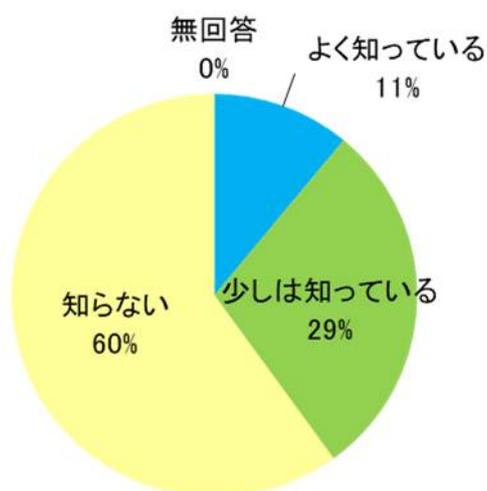


1 思う	456	92%
2 思わない	4	1%
3 わからない	36	7%
無回答	2	0%

<設問4>

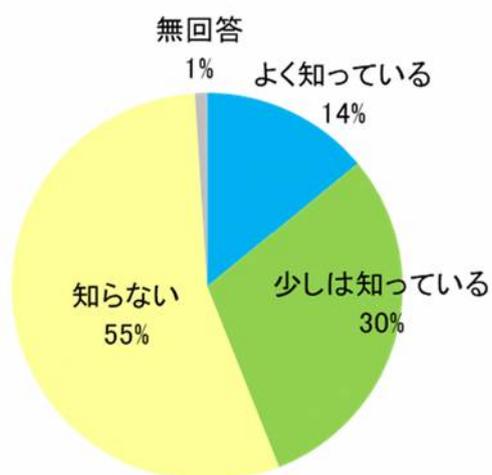
山口県では、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しています。このアンケート調査の前に、「やまぐち森林づくり県民税」のことを、あなたをご存じでしたか。

【個人】



1 よく知っている	50	11%
2 少しは知っている	126	29%
3 知らない	262	60%
無回答	1	0%

【企業】

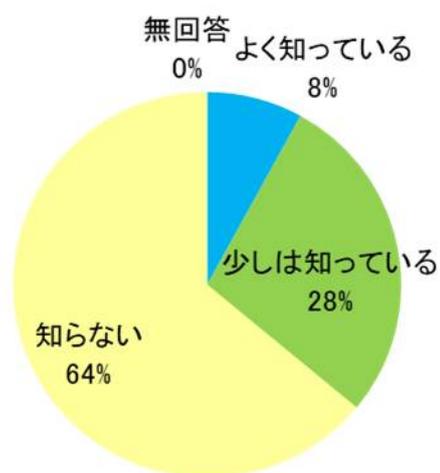


1 よく知っている	68	14%
2 少しは知っている	149	30%
3 知らない	276	55%
無回答	5	1%

<設問5>

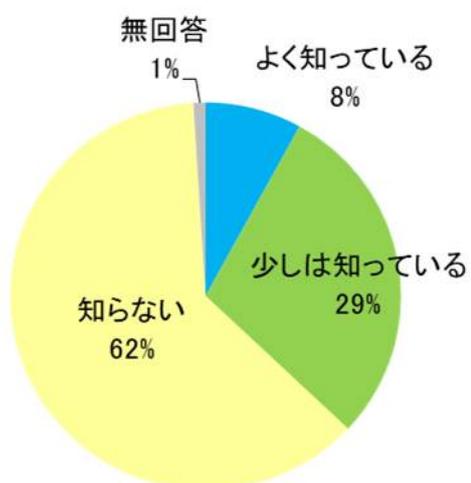
山口県では、「やまぐち森林づくり県民税」を活用し、荒廃したスギ・ヒノキ人工林の整備等を進めています。このような取組が進められていることを、あなたはご存じでしたか。

【個人】



1 よく知っている	33	8%
2 少しは知っている	125	28%
3 知らない	279	64%
無回答	2	0%

【企業】

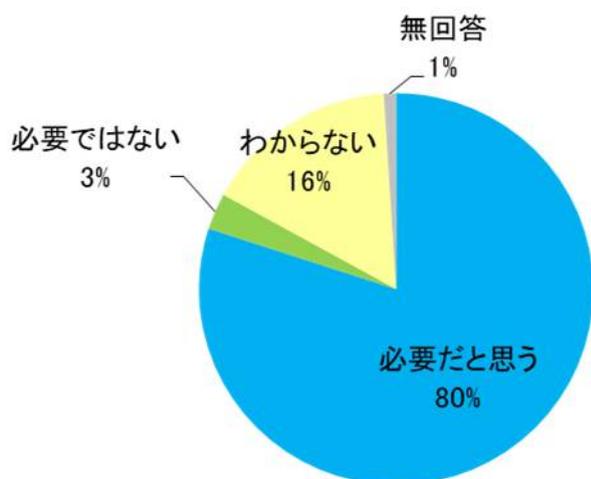


1 よく知っている	39	8%
2 少しは知っている	146	29%
3 知らない	309	62%
無回答	4	1%

<設問6>

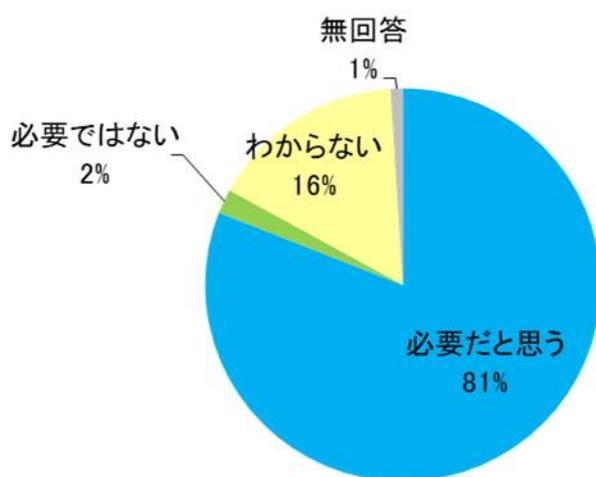
「やまぐち森林づくり県民税」による荒廃したスギ・ヒノキ人工林の整備等の取組を、あなたはどのように思われますか。

【個人】



1 必要だと思う	350	80%
2 必要ではない	14	3%
3 わからない	72	16%
無回答	3	1%

【企業】

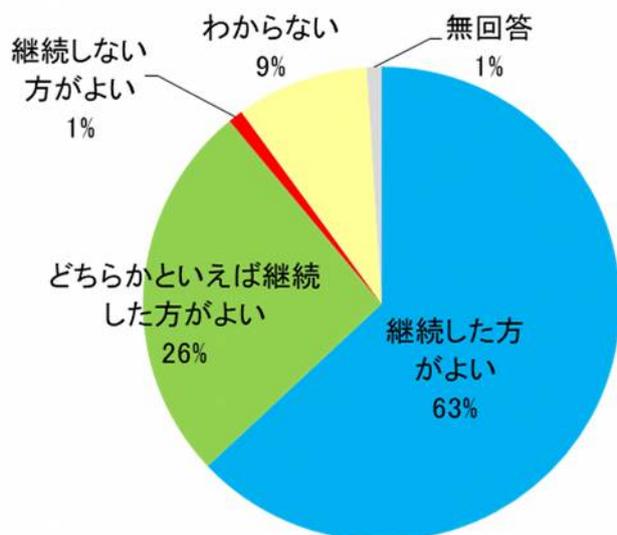


1 必要だと思う	402	81%
2 必要ではない	8	2%
3 わからない	80	16%
無回答	8	1%

<設問7>

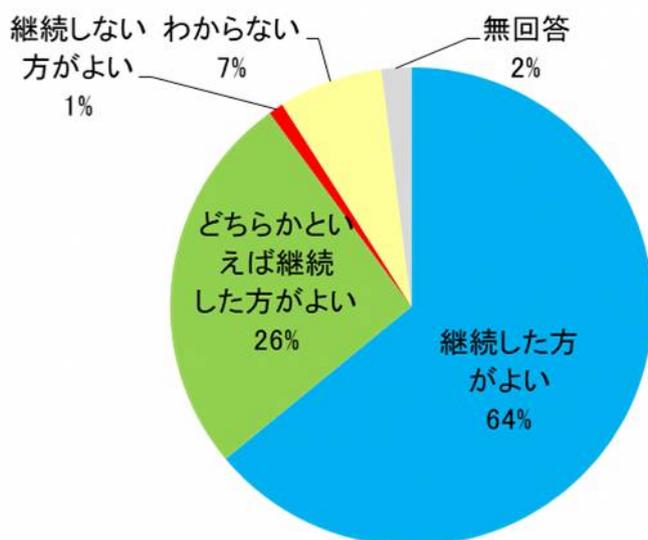
山口県には、荒廃したスギ・ヒノキ人工林や繁茂・拡大した竹林がまだ多くあります。あなたは荒廃したスギ・ヒノキ人工林の整備等の取組をどのように思われますか。

【個人】



1	継続した方がよい	275	63%
2	どちらかといえば継続した方がよい	113	26%
3	継続しない方がよい	6	1%
4	わからない	38	9%
	無回答	7	1%

【企業】



1	継続した方がよい	321	64%
2	どちらかといえば継続した方がよい	129	26%
3	継続しない方がよい	6	1%
4	わからない	34	7%
	無回答	8	2%

<設問7-2>

また、Q7で、「3 継続しない方がよい」、「4 わからない」に○をされた方は、下記にその理由をお答えください。

○継続しない方がよい方

区分	主な意見
事業効果	○税金がとられていることはわかっているが、まわりの山の整備は税を支払って以来整備されたのをみたり聞いたりしたことはなく、本当にきちんと公平に使用されているかどうか疑問が多いため。
必要性	○森林より、先に若者や子育て層に支持される施策をすべき。県が廃れていく一方で、このインターネット時代、その森林の多さなどから、光回線すらつながらないところが多すぎる。
周知	○取り組みの成果などが一切感じられないから。
その他	○豊かな森林とはスギ、ヒノキ人工林ではない！広葉樹の整備こそが必要。

○わからない方

区分	主な意見
事業効果	○人工林に適した場所であれば有効に活用すべきだが、天然林に戻す方がよい場合があると考えられる。 ○森林の持つ様々な機能は十分理解ができるものであり、豊かな森林にしていくことは必要だと思います。ただ、その手法として、スギ・ヒノキ人工林の整備が中心となるのでしょうか。例えば、二酸化炭素吸収機能ひとつをとっても、吸収機能が高い落葉広葉樹の拡大といった手法など複数の取組が必要なのではないのでしょうか。
必要性	○生活道路沿いの雑草等も満足に整備できているとは言えないのに、荒廃林の整備に手が回るのか疑問。
税制	○この物価高で、これ以上の税金をとられたくない。
周知	○費用をかけたほどの効果が現れているかわからないから。 ○具体的な取り組み内容と個人にどのような影響があるかの情報が不足している。 ○自分の周囲では「生活面での支障等」が起きていないから。県民税が適正に使われているかわからないから。
その他	○取組自体は継続した方がよいと思うが、花粉症患者が増えているので、スギやヒノキに代わる樹木を検討出来ないかと思う。 ○自然を人の力でどうにかするのは、もっと大きな金額が必要となり県民の負担も増すのではないかと考えたため。 ○家族がスギ花粉でつらそうなので、どちらかというスギは縮小してほしい。森林は必要。

<設問 8>

現在取り組んでいる次の事業について、制度を継続した場合に、引き続き実施すべきと思われる事業はどれですか。（実施すべきと思われる事業全てに○をつけてください。）

【個人】

(複数回答)

1	森林機能回復事業 (荒廃したスギやヒノキ人工林の間伐を実施し、森林機能の回復を図る)	327	84%
2	繁茂竹林整備事業 (繁茂竹林の伐採により、元の森林の状態に回復させる)	274	71%
3	地域が育む豊かな森林づくり推進事業 (里山林の整備や、市町が独自に取り組む森林整備の支援)	250	64%
4	地域森林づくり活動強化対策事業 (ボランティアリーダーの育成や市町・団体が行う森林づくり活動支援)	178	46%
5	県民参加の森林づくり推進事業 (森林の果たす役割や県民税関連事業に関する普及啓発活動)	171	44%
	無回答	8	2%

※ 設問 7 で 1 「継続した方がよい」、2 「どちらかといえば継続した方がよい」を選択した388人に対する比率

【企業】

(複数回答)

1	森林機能回復事業 (荒廃したスギやヒノキ人工林の間伐を実施し、森林機能の回復を図る)	386	86%
2	繁茂竹林整備事業 (繁茂竹林の伐採により、元の森林の状態に回復させる)	320	71%
3	地域が育む豊かな森林づくり推進事業 (里山林の整備や、市町が独自に取り組む森林整備の支援)	243	54%
4	地域森林づくり活動強化対策事業 (ボランティアリーダーの育成や市町・団体が行う森林づくり活動支援)	168	37%
5	県民参加の森林づくり推進事業 (森林の果たす役割や県民税関連事業に関する普及啓発活動)	159	35%
	無回答	5	1%

※ 設問 7 で 1 「継続した方がよい」、2 「どちらかといえば継続した方がよい」を選択した 450 社に対する比率

<設問9>

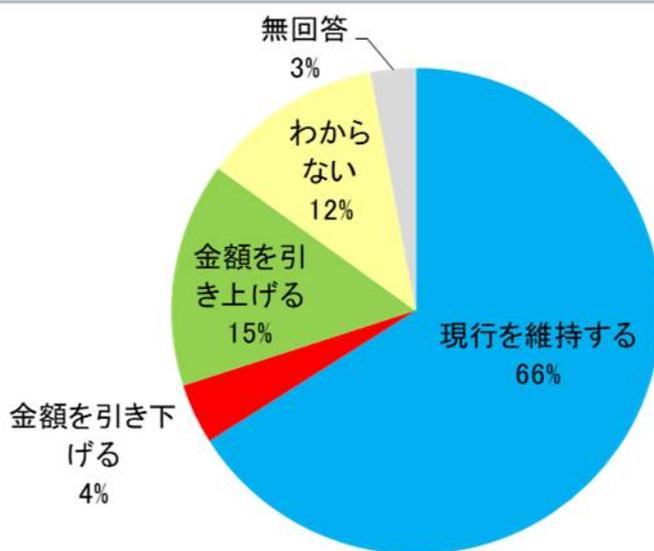
制度を継続した場合に、設問8に掲げる現行事業以外に取り組んだ方が良くと考えられる事業があればご記入ください。

区 分	主な意見
山地災害防止	○単に元の森林状態に戻すのではなく、土砂崩れや地滑りなどの災害防止の観点での工夫の取り組みをお願いします。
広葉樹林	○水対策の広葉樹の拡大などを充実して自然環境を整備する。 ○人工林の縮小・人工林区域調整指定、雑木林の拡大。 ○スギやヒノキを伐採後再び植樹する時どんぐり等植樹したらどうかと思う。(山間部)
里山整備	○昔の日本に多く存在した照葉樹林を育み、もっと多くの人に親しまれる里山の風景にもどってほしいです。 ○里山を整備して子どもたちが自然に触れ合える場所を作ってほしい。 ○里山のモデルケースを率先してやってほしい。 ○森林整備の実施と同時に山道整備・県民がふれあえる公園・登山道を作り県民に還元してほしい。 ○ボランティアリーダーの連絡・連携組織を設置。
資源利用	○森林を伐採した、竹・木を山に放置せず(豪雨の時流木として流れ出さない) 再利用する。 ○伐採した竹を活用した製品の商品化、開発をさらに進めて、県の産業の発展につなげることができないだろうか。 ○猪や鹿などの駆除。間伐材や竹、獣肉などを有効に利用して事業が継続できる仕組みを作る。 ○竹材の活用 竹チップや堆肥、その他の利用をさぐる。 ○伐採した木材を県民が県内を所在地とする家造りに使えるような事業の創設 ○間伐木材や竹材を利用した、商品開発等の事業に取り組む企業を、積極的に支援したり、県民に商品や事業の紹介をしたりしてはどうか。
花粉症対策	○春先のスギ・ヒノキの花粉を減らす事業も拡大してほしい。
森林体験学習	○森林の中に遊び場を提供してほしい。(親子参加型) ○子ども達へ体験型学習機会を提供してほしい。

<設問 10>

【個人】

「やまぐち森林づくり県民税」は、個人一人当たり年間 500 円を負担していただいています。今後も継続する場合、あなたはどの程度の負担が適切と思われますか。

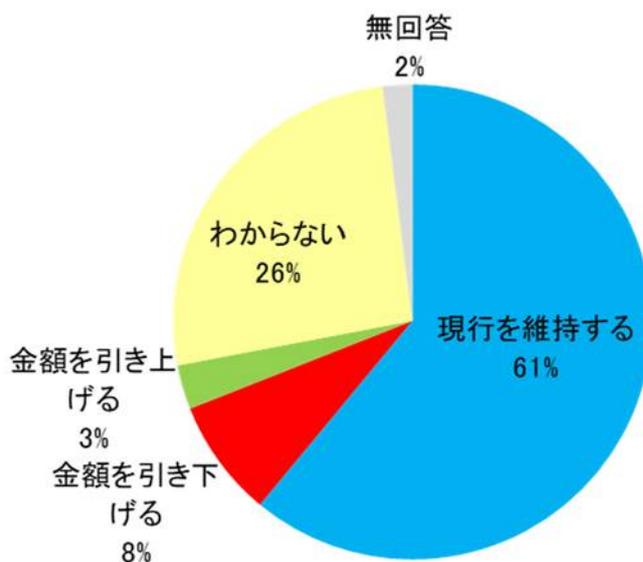


1	現行の500円を維持する		257	66%
2	金額を引き下げる	100 円	2	1%
		200 円	1	0%
		300 円	6	2%
		無回答	3	1%
		計	12	4%
3	金額を引き上げる	700 円	3	1%
		800 円	4	1%
		1,000 円	46	12%
		1,200 円	2	0%
		2,000 円	5	1%
		3,000 円	1	0%
		無回答	1	0%
		計	62	15%
4	わからない		46	12%
	無回答		11	3%

※ 設問 7 で 1 「継続した方がよい」、2 「どちらかといえば継続した方がよい」を選択した388人に対する比率

【企業】

「やまぐち森林づくり県民税」は、企業一社当たり法人の県民税均等割額の5%相当額（資本金等に応じて1千円～4万円）を負担していただいています。今後も継続する場合、どの程度の負担が適当と思われますか。



1	現行の法人の県民税均等割額の5%を維持する	274	61%	
2	金額を引き下げる	1%	5	1%
		1.6%	1	0%
		2.5%	1	0%
		3%	21	5%
		無回答	10	2%
		計	38	8%
3	金額を引き上げる	6%	1	0%
		7%	3	1%
		8%	1	0%
		10%	8	2%
		無回答	2	0%
		計	15	3%
4	わからない	116	26%	
	無回答	7	2%	

※ 設問7で1「継続した方がよい」、2「どちらかといえば継続した方がよい」を選択した450社に対する比率

<設問 11>

その他、やまぐち森林づくり県民税制度について、ご意見・ご要望などがございましたら、下記にご記入ください。

区分	主な意見
山地災害防止	○大雨の災害に対する事業をお願いします。
花粉症対策	○スギ、ヒノキはアレルギーの元です。ナラやブナなどを主流にすべきでは。
税額関連	○未来への投資として500円なら負担しても良いのではと思う。 ○あまり多くの人の目に見える取組に関する税金ではないので金額が大きいと少し負担感がありますが、現行では大きな負担も感じないので大多数が納得できるのではないかと思います。 ○国（森林環境税）との二重取りになっているのでは？国はやめてもらいたい。
周知関連	○山に関するイベント（山登りでもよい）・子どもへの啓発活動を行い、広く森林に親しむ裾野を広げる活動を行う。
賛成意見	○豊かな森林、竹林は国、県の財産であり、水を育む源であり、昨今の気候を鑑みても必須で維持、整備が必要です。このために県民税を有効に使い、森林整備、水源の涵養、防災など（日本人の）県民の安全、安心、快適、健全な生活に還元して下さることを要望します。 ○豊かな森林は人の生活にかかせないし、将来の子ども達の為に役立つと思うから。 ○森林環境保全を維持することは将来の目に見えぬ財産だと思います。ぜひこれからも頑張って継続してほしいと節に希望します。 ○竹林はそのままでは根がはり大変なことになります。あらゆる環境を考えると継続した方がいいと思います。 ○手が入らず竹が繁茂している林は本当に多くて、心配になりました。山の所有者の方たちも、手を入れたくても年をとってなかなか思うようにならないといわれていました。災害が年々増えているこの頃、森を整備してくことはとても大切なことだと思います。
反対意見	○わざわざ税金をとらずに今ある税金から取組むべきだ。削減できる税金が山ほどある。 ○人口減少の傾向にある中で、税収の確保が難しくなっていると認識している。財源が潤沢にあれば、森林づくりに力を入れるべきだと思うが、他の問題に税金を使うべきでは。

2 市町・関係団体意見聴取

〔目的〕

やまぐち森林づくり県民税の第4期が令和6年度で満了を迎えることから、今後のあり方を検討するための参考資料として活用する。

〔調査期間〕

令和6年8月19日(月)～10月6日(日)

〔調査対象〕

(1) 市町

全19市町

(2) 関係団体

山口県森林組合連合会、山口県木材協会など10団体

〔意見聴取結果〕

(1) 市町

① 荒廃した人工林の整備、繁茂竹林の伐採

- 多くの住民から、荒廃した人工林の整備や、繁茂・拡大した竹林の伐採について、感謝の声が届いている。
- 荒廃した人工林や繁茂した竹林は、未だ多く存在するため、森林の持つ公益的機能の維持の観点から取組の継続が必要である。

② 地域課題の解決に向けた森林整備

- 農地周辺の竹林伐採等を通じた、緩衝帯機能の回復による鳥獣被害の軽減や、山頂周辺の修景伐採による展望の改善など、住民等の活動に寄与している。
- 森林内の遊歩道の整備や、山頂周辺の整備により、利用者数が増加した。
- 地域の実情に応じた新たな取組が必要。

③ 県民の森林づくり活動への参画促進（ボランティア団体への支援）

- ボランティア団体の方々が、もっと活動しやすく、活動の幅が広がるような見直しが必要ではないか。

(2) 関係団体

① 荒廃した人工林の整備、繁茂竹林の伐採

- 健全な森林を育むため、荒廃森林の整備や繁茂竹林対策にしっかり取り組んで欲しい。
- 事業を実施した森林は、下草などの植生の回復が概ね順調である。
- 竹林伐採は、鳥獣被害の軽減にも繋がっており、更なる取組を期待する声を聞く。
- 小規模な事業が多いため、作業時の安全性に関する啓発等が必要。
- 繁茂竹林対策で伐採した竹材の有効活用を促進する取組が必要。

② 県民の森林づくり活動への参画促進（ボランティア団体への支援）

- 森林・林業の理解促進のために、引き続きボランティア支援は必要。
- 森林づくり活動に参加する人を増やすため、意欲のある活動に対して、柔軟な支援が必要。
- ボランティア活動の幅を広げるため、ボランティア団体の連携強化が必要。
- ボランティア活動を持続するためには、ボランティア技術も含めて、対応できる指導者の養成が必要。

③ 県民税制度の周知について

- 県民税を活用したボランティア団体等が、その旨を周知していく事が必要。

II 事業地における植生回復状況等調査の結果について

1 植生回復状況等調査

(1) 目的

県民税事業の見直しにあたり、これまで継続的に取り組んできた強度間伐及び繁茂竹林伐採を対象とした現地調査により、「既往施工地における事業効果の持続性」や「第4期対策施工地における事業効果の発現状況」等について、確認・検証する。

(2) 調査期間

令和6年5月～令和6年8月

(3) 調査対象及び調査箇所数

① 第1期対策の施工地（事業実施後19年経過した施工地）

- ・強度間伐の施工地：23箇所
- ・繁茂竹林伐採の施工地：18箇所

② 第4期対策の施工地

- ・強度間伐の施工地：48箇所
- ・繁茂竹林伐採の施工地：25箇所



(4) 調査項目及び調査方法

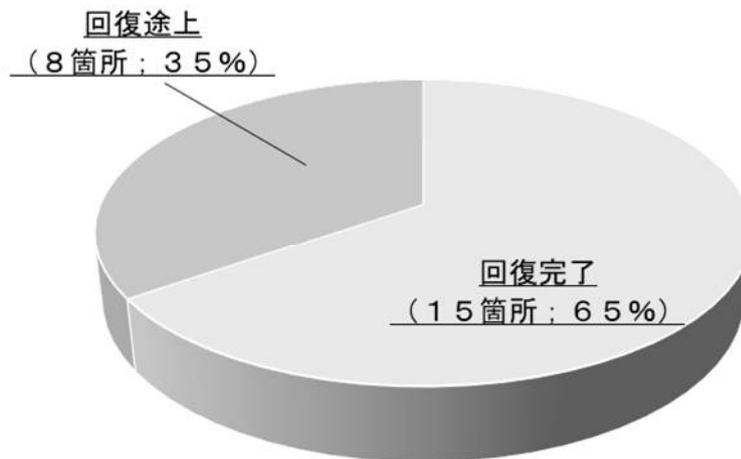
調査項目		調査方法
強度間伐	林内の下層植生の回復状況	事業地内の標準的な地点において、低木類等下層植生による林床の被覆率を観察
繁茂竹林伐採	天然更新の完了度合い	事業地内の標準的な地点において、低木類等後継樹の発生状況を観察

(5) 調査結果

① 強度間伐

■ 第1期対策の施工地（事業実施後19年経過の施工地）

評価	箇所数	平均立木密度
回復完了 (林内植生の回復が50%以上)	15 (65%)	1,222 本/ヘクタール
回復途上 (林内植生の回復が25~50%)	8 (35%)	1,294 本/ヘクタール
回復が十分でない (林内植生の回復が25%未満)	— (—)	—
計	23 (100%)	1,247 本/ヘクタール



【林内植生の回復状況】



評価：回復完了（林内植生：50%以上）



評価：回復途上（林内植生：25%~50%）

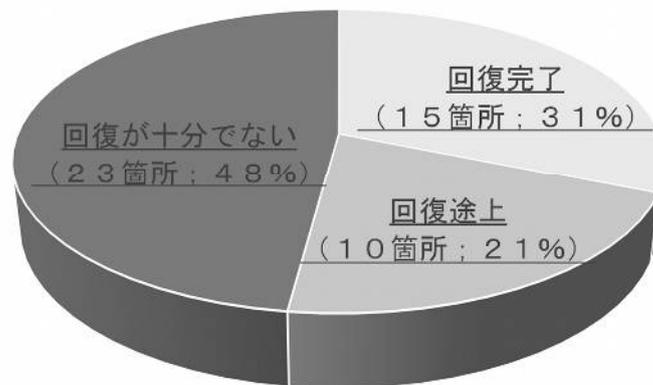
【評価】

- ・ 全施工地で概ね順調に植生の回復が進んでいる。
- ・ 中層をなす広葉樹が育っており、森林機能の回復が進んでいる。

■ 第4期対策の施工地〔4期対策から本数間伐率を細分化（40%・50%）〕

評価	箇所数	平均立木密度
回復完了 (林内植生の回復が50%以上)	15 [1] (31%)	1,061 本/ヘクタール
回復途上 (林内植生の回復が25~50%)	10 [2] (21%)	1,050 本/ヘクタール
回復が十分でない (林内植生の回復が25%未満)	23 [2] (48%)	1,158 本/ヘクタール
計	48 [5] (100%)	1,105 本/ヘクタール

※[]内：50%間伐の施工地



【林内植生の回復状況】



評価：回復完了（50%間伐の林内植生：50%以上）



評価：回復が十分でない（林内植生：25%未満）

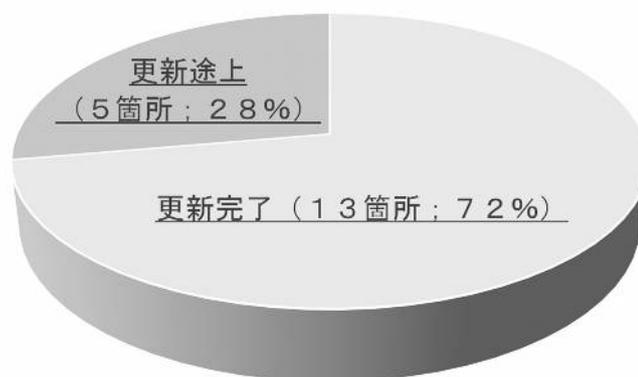
【評価】

- 全体の52%（25箇所）は概ね順調に植生の回復が進んでいる。
- 50%間伐の適用により、平均立木密度は、第1期対策と比較し減っている（△142本/ha）。
- 植生の回復が進んでいないケースは、事業実施から間のない施工地であった。

② 繁茂竹林伐採

■ 第1期対策の施工地（事業実施後19年経過の施工地）

評価	箇所数
更新完了 （広葉樹等による更新本数が3,000本/箇所以上）	13 (72%)
更新途上 （広葉樹等による更新本数が1,000～3,000本/箇所）	5 (28%)
更新が十分でない （広葉樹等による更新本数が1,000本/箇所未満）	— (—)
計	18 (100%)



【森林の更新状況】



評価：更新完了（更新本数：3,000本/箇所以上）



評価：更新途上（更新本数：1,000～3,000本/箇所）

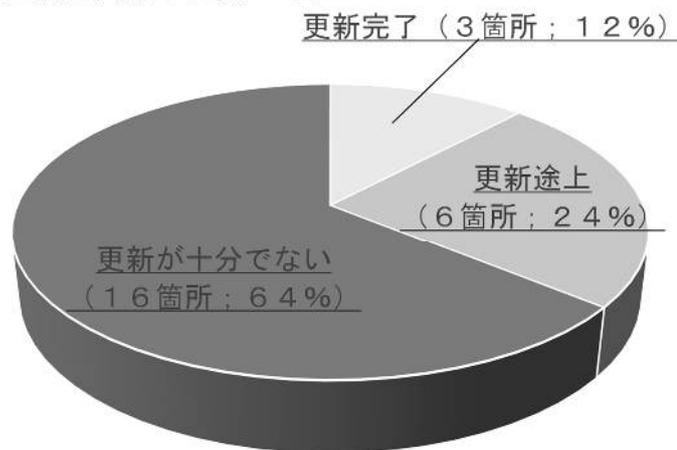
【評価】

- 更新が十分でない施工地は見受けられず、いずれも森林の更新が完了又は更新途上となっており、良好な回復が確認された。

■ 第4期対策の施工地〔第4期対策から広葉樹の植栽を追加〕

評価	箇所数
更新完了 (広葉樹等による更新本数が 3,000 本/ヘクタール以上)	3 [2] (12%)
更新途中 (広葉樹等による更新本数が 1,000～3,000 本/ヘクタール)	6 [5] (24%)
更新が十分でない (広葉樹等による更新本数が 1,000 本/ヘクタール未満)	16 [8] (64%)
計	25 [15] (100%)

[]内：広葉樹の植栽を実施した施工地



【森林の更新状況】



評価：更新完了（更新本数：3,000 本/ヘクタール以上）



評価：更新が十分でない（更新本数：1,000 本/ヘクタール未満）

【評価】

- ・ 全体の 36% (9 箇所) は森林への更新が完了又は更新途中となっている。
- ・ 事業実施後、間もないことから全体的に広葉樹等による天然更新が進んでいない。
- ・ 周りに広葉樹が無く天然更新の遅れが懸念される施工地で実施した広葉樹の植栽においては、順調な更新が確認された。



広葉樹の植栽